(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第4049483号
(P4049483)
(45)発行日　平成20年2月20日(2008.2.20)　(24)登録日　平成19年12月7日(2007.12.7)

(51)Int.Cl.　F I
A45D 19/12 (2006.01)　A45D 19/12

請求項の数 3　(全 6 頁)

(21)出願番号　特願平11-210807
(22)出願日　平成11年7月26日(1999.7.26)
(65)公開番号　特開2001-37529(P2001-37529A)
(43)公開日　平成13年2月13日(2001.2.13)
審査請求日　平成18年2月14日(2006.2.14)

(73)特許権者　000149789
株式会社大廣製作所
大阪府大阪市平野区加美北４丁目６番３２号
(74)代理人　100081813
弁理士　早瀬　憲一
(72)発明者　清水　寛久
大阪府大阪市平野区加美北４丁目６番３２号　株式会社大廣製作所内

審査官　久保　克彦

(56)参考文献　特開平０５－２０７９１０（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
A45D 19/12

(54)【発明の名称】自動洗髪機

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
被洗髪者の頭部を収容するシンクと、該シンク内へ温水を噴射し、被洗髪者の頭髪を洗髪する洗髪手段とを備えた自動洗髪機であって、
被洗髪者の頭髪をまとめて懸架するための頭髪受けが上記シンク内に設けられ、
上記頭髪受けは、弧状の線状部材からなる頭髪受け部を有したものであることを特徴とする自動洗髪機。
【請求項２】
被洗髪者の頭部を収容するシンクと、該シンク内へ温水を噴射し、被洗髪者の頭髪を洗髪する洗髪手段とを備えた自動洗髪機であって、
被洗髪者の頭髪をまとめて懸架するための頭髪受けが上記シンク内に設けられ、
上記頭髪受けは、リング状の線状部材からなる頭髪受け部を有したものであることを特徴とする自動洗髪機。
【請求項３】
請求項１乃至請求項２の何れかに記載の自動洗髪機であって、
上記頭髪受けを取り付けるための取り付け部を上記シンク上部に有し、上記頭髪受けが該取り付け部から取り外し可能であることを特徴とする自動洗髪機。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】

本発明は、被洗髪者の頭髪を洗髪する自動洗髪機に関し、特に被洗髪者の頭髪が絡むことを防止する自動洗髪機に関するものである。

【０００２】

【従来の技術】

従来、頭髪の長い被洗髪者を自動洗髪機により洗髪する場合、シンク内底に垂れ下がる被洗髪者の頭髪がシンク内壁に付き、被洗髪者に不快感を与えていたため、該シンク内に被洗髪者の頭髪をのせる網状の頭髪置きを設け、被洗髪者の頭髪がシンク内壁に付くことを防止していた。

【０００３】

図４は、従来の自動洗髪機を上から見た概略図であり、図５は従来の自動洗髪機における図４のII－II’断面の断面図である。図４において、４０１は被洗髪者の頭髪、４０２は被洗髪者の頭髪４０１をのせる網状の頭髪置き、４０３はシンクであり、図５において、ＳＨ１からＳＨ６は温水を噴射するシャワーヘッド、ＮＨ１からＮＨ３は洗髪剤を含んだ温水を噴射するノズルヘッドである。

【０００４】

図５に示すように、従来の自動洗髪機は、シンク４０３内に被洗髪者の頭髪をのせる網状の頭髪置き４０２を設け、該網状の頭髪置き４０２上に被洗髪者の頭髪をのせている。このため、被洗髪者の頭髪４０１がシンク４０３の内壁につくことにより、被洗髪者に不快感を与えることはなかった。

【０００５】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、従来の自動洗髪機では、図４に示すように、被洗髪者の頭髪４０１は網状の頭髪置き４０２の上に無秩序に散らばるため、洗髪中にシンク４０３の内壁に取り付けられた複数のシャワーヘッドから噴出されるシャワーにより被洗髪者の頭髪４０１が激しく絡んでしまい、洗髪終了後の整髪時に大きな問題となっていた。

【０００６】

本発明は、かかる問題に鑑みてなされたものであり、洗髪時に被洗髪者の頭髪がシンク内底に垂れ下がり、被洗髪者の頭髪がシンク内壁に付くことにより、被洗髪者が不快感を感じることを防止し、且つ、洗髪時に複数のシャワーヘッドから噴出されるシャワーにより、被洗髪者の頭髪が絡んでしまうことを防ぐことのできる自動洗髪機を提供することを目的とする。

【０００７】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するため、本発明の請求項１にかかる自動洗髪機は、被洗髪者の頭部を収容するシンクと、該シンク内へ温水を噴射し、被洗髪者の頭髪を洗髪する洗髪手段とを備えた自動洗髪機であって、被洗髪者の頭髪をまとめて懸架するための頭髪受けが上記シンク内に設けられ、上記頭髪受けが、弧状の線状部材からなる頭髪受け部を有したものである。

【０００９】

また、本発明の請求項２にかかる自動洗髪機は、被洗髪者の頭部を収容するシンクと、該シンク内へ温水を噴射し、被洗髪者の頭髪を洗髪する洗髪手段とを備えた自動洗髪機であって、被洗髪者の頭髪をまとめて懸架するための頭髪受けが上記シンク内に設けられ、上記頭髪受けは、リング状の線状部材からなる頭髪受け部を有したものである。

【００１０】

また、本発明の請求項３にかかる自動洗髪機は、請求項１乃至請求項２の何れかに記載の自動洗髪機であって、上記頭髪受けを取り付けるための取り付け部を上記シンク上部に有し、上記頭髪受けが該取り付け部から取り外し可能であるものである。

【００１１】

【発明の実施の形態】

（実施の形態１）

本発明の実施の形態１による自動洗髪機を図１、図２を用いて説明する。
図１は、本発明の実施の形態１による自動洗髪機を上から見た概略図であり、図２は本発明の実施の形態１による自動洗髪機における図１のI－I’断面の断面図である。図１において、１０１は被洗髪者の頭髪、１０２は被洗髪者の頭髪１０１を受ける弧状の線状部材からなる頭髪受け部、１０３はシンクである。また、１０４は頭髪受け部１０２に取り付けられたフックであり、被洗髪者の頭髪１０１をまとめて懸架する頭髪受け１０５は頭髪受け部１０２とフック１０４により構成されている。１０６はフック１０４を取り付ける取り付け部である。また、図２において、ＳＨ１からＳＨ６は温水を噴射するシャワーヘッド、ＮＨ１からＮＨ３は洗髪剤を含んだ温水を噴射するノズルヘッドである。なお、図２において図１と同一の符号が付されている構成要素は、図１の構成要素と同じものであるため、説明を省略する。

【００１２】
なお、本明細書中の，弧状とは、真円の弧形状であるものは勿論これに含まれるが、必ずしもこれに限定されるものではなく、楕円などの弧形状や放物線形状、懸垂線形状などのものをも含むものである。また、本明細書中の，線状部材とは、紐状のものをいい、例えば、ゴムや軟性を有する金属、繊維などの柔軟性を有する材料により作られた紐状のものや、樹脂や硬性を有する金属などの柔軟性を有さない材料により作られた紐状のものなどをいう。また、本明細書中の，まとめるとは、バラバラであったものを一つの整った状態にすることを意味する。

【００１３】
図２に示すように被洗髪者の頭髪１０１は、頭髪受け部１０２によりまとめられ、頭髪受け１０５のフック１０４を取り付け部１０６に取り付けることにより懸架されている。

【００１４】
このように被洗髪者の頭髪１０１をまとめて、懸架する頭髪受け１０５を設けることにより、被洗髪者の頭髪１０１がシンク１０３の内壁に付くことを防止できる。また、被洗髪者の頭髪１０１は、洗髪シャワーが強くなった場合においてもさばけることがなく、頭髪受け部１０２によりまとめられているため、洗髪時の噴出されるシャワーによる被洗髪者の頭髪１０１の絡みを防ぐことができ、洗髪後の整髪が容易となる。

【００１５】
また、上記頭髪受け１０５は、フック１０４により取り付け部１０６に取り付けられているため、該頭髪受け１０５は、取り付け部１０６から取り外しを行なうことが可能である。そのため、被洗髪者の頭髪１０１の長さに応じて、長さの異なる頭髪受け１０５を用い、被洗髪者の頭髪１０１を洗髪に適した場所に自由に動かすことが可能である。

【００１６】
（実施の形態２）
本発明の実施の形態２による自動洗髪機を図３を用いて説明する。
図３は、本発明の実施の形態２による自動洗髪機を上から見た概略図である。図において、３０１は被洗髪者の頭髪、３０２は被洗髪者の頭髪３０１を受けるリング状の線状部材からなる頭髪受け部、３０３はシンクである。また、３０４は頭髪受け部３０２に取り付けられたフックであり、被洗髪者の頭髪３０１をまとめて懸架する頭髪受け３０５は頭髪受け部３０２とフック３０４により構成されている。３０６はフック３０４を取り付ける取り付け部である。

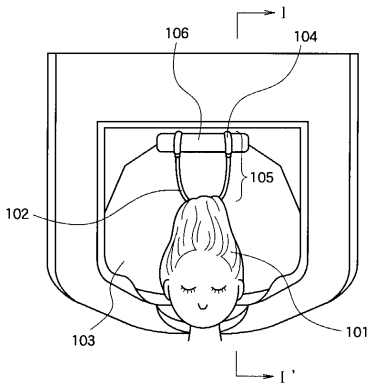
【００１７】
なお、本明細書中の，リング状とは、円形状であるものは勿論これに含まれるが、必ずしもこれに限定されるものではなく、被洗髪者の頭髪を束ねて通すことができるような輪形状のものであればよい。

【００１８】
図３に示すように、被洗髪者の頭髪３０１は、リング状の頭髪受け部３０２に該被洗髪者の頭髪３０１を束ねて通すことによりまとめられ、頭髪受け３０５のフック３０４を取り付け部３０６に取り付けることにより懸架されている。

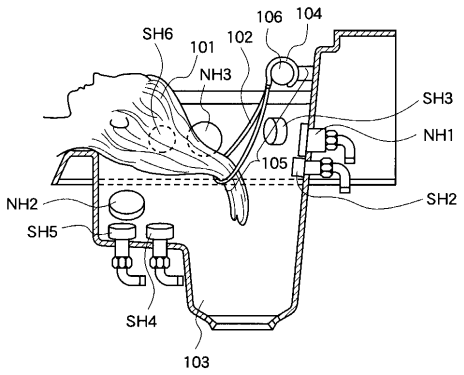
【００１９】
このように被洗髪者の頭髪３０１をまとめて懸架する上記頭髪受け部３０２を有する頭髪受けを設けることにより、上記実施の形態１の場合と同様に、被洗髪者の頭髪３０１がシンク３０３の内壁に付くことを防止できる。また、被洗髪者の頭髪３０１は、洗髪シャワーが強くなった場合においてもさばけることがなく、頭髪受け部３０２によりまとめられているため、洗髪時の噴出されるシャワーによる被洗髪者の頭髪３０１の絡みを防ぐことができ、洗髪後の整髪が容易となる。
【００２０】
また、上記頭髪受け３０５は、フック３０４により取り付け部３０６に取り付けられているため、該頭髪受け３０５は、取り付け部３０６より取り外しを行なうことが可能である。そのため、上記実施の形態１と同様に、被洗髪者の頭髪３０１の長さに応じて、長さの異なる頭髪受け３０５を用い、被洗髪者の頭髪３０１を洗髪に適した場所に自由に動かすことが可能である。
【００２１】
なお、上記実施の形態１、及び２では、頭髪受け部をフックで取り付け部に取り付ける場合について説明したが、取り外し可能な他の手段により取り外しを行なう場合であっても同様の効果を得ることができる。
【００２２】
また、上記実施の形態１、及び２では、被洗髪者の頭髪の長さにより長さの異なる頭髪受けを用いる場合について説明したが、バンドなどの長さを調節する手段により長さを調節する場合であっても同様の効果を得ることができる。
【００２３】
なお、上記実施の形態１では頭髪受け部が弧状の線状部材からなるものである場合について説明し、本実施の形態２では頭髪受け部がリング状の線状部材からなるものである場合について説明したが、頭髪受け部は、これらに限定されるものではなく被洗髪者の頭髪をまとめて懸架するものであれば、同様の効果を得ることができる。
【００２４】
【発明の効果】
以上のように、本発明の自動洗髪機によれば、被洗髪者の頭髪をまとめて、懸架する頭髪受けを設けることにより、被洗髪者の頭髪がシンク内壁に付くことを防止できる。また、被洗髪者の頭髪は、洗髪シャワーが強くなった場合においてもさばけることがなく、まとまって収まっているため、噴出されるシャワーにより被洗髪者の頭髪が絡むことを防ぐことができ、洗髪後の整髪が容易になるという効果が得られる。
【００２５】
また、頭髪受けは、フックなどにより取り付け部に取り付けられているため、これの取り外しを行なうことが可能である。そのため、被洗髪者の頭髪の長さに応じて、長さの異なる頭髪受けを用い、被洗髪者の頭髪を洗髪に適した場所に自由に動かすことが可能となる効果が得られる。
【図面の簡単な説明】
【図１】本発明の実施の形態１による自動洗髪機を上から見た概略図である。
【図２】本発明の実施の形態１による自動洗髪機における図１のI－I’断面の断面図である。
【図３】本発明の実施の形態２による自動洗髪機を上から見た概略図である。
【図４】従来の自動洗髪機を上から見た概略図である。
【図５】従来の自動洗髪機における図３のII－II’断面の断面図である。
【符号の説明】
１０１、３０１、４０１　被洗髪者の頭髪
１０２　弧状の頭髪受け部
１０３、３０３、４０３　シンク
１０４、３０４　フック

１０５、３０５　　頭髪受け
１０６、３０６　　取り付け部
３０２　　リング状の頭髪受け部
４０２　　網状の頭髪置き
ＳＨ１、ＳＨ２、ＳＨ３、ＳＨ４、ＳＨ５、ＳＨ６　　シャワーヘッド
ＮＨ１、ＮＨ２、ＮＨ３　　ノズルヘッド

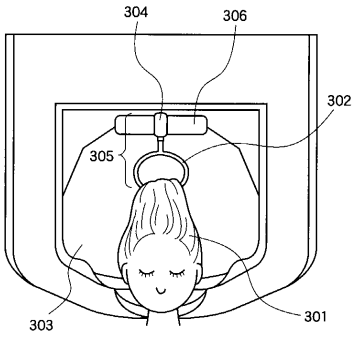
【図１】



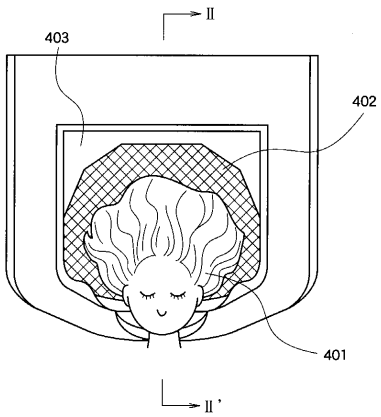
【図２】



【図３】



【図４】



【図５】

